

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400401		
法人名	社会福祉法人きづき会		
事業所名	グループホームきづきの家(縁ユニット)		
所在地	出雲市大社町杵築西2629番地		
自己評価作成日	令和3年3月5日	評価結果市町村受理日	令和3年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワイエム		
所在地	出雲市今市町650		
訪問調査日	令和3年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、変化していく利用者様の状態に柔軟に対応していく。利用者様のしたいことや出来ることに目をむけ、それを生かした支援をするよう努めてきました。年々ADLも低下していく中、日々利用者様の状態を把握し個々にあった対応を検討していきました。利用者様のしたい事を聞き出すのは難しく、できる事を探し出し援助して。新型コロナウイルス感染症が流行り、家族様との面会の回数も減り家族様の事を忘れられないよう、写真を見てもらったり、手紙をかいてもらうなど今後も続けていこうと思っています。

大社町で、平成3年から地域の福祉に貢献してきた社会福祉法人による2ユニットのグループホームは、開設9年目を迎え、利用者さん方は落ち着いた暮らしを営んでいる。ホームは民家や集合住宅に隣接し、地域の人々と、日常的にふれあうことができる。ユニット毎の民家風の玄関を入ると、木材を活かした和洋折衷の建築が落ち着いた雰囲気を感じさせる。神話の街ならではの、神楽や神事などにふれ合う機会など、楽しみ事は多い。利用者さん方は、職員にサポートされながら、調理、洗濯、買い物などのホームの日常作業をまるで家事のように、自然に行っており、役割を持つことの生きがいを感じながら暮らしている。コロナ禍にあって、二ヶ月ごとの運営推進会議も文書でのやり取りになっているが、参加者は協力的であり、ホームの運営に活かされている。慣れ親しんだホームでの暮らしを継続していただくこと、利用者さんの重症化にも対応するため、法人の訪問看護ステーションの協力を得て、看取りもや医療的ケアも質の高いものになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者を中心に、職員が一丸となり理念を踏まえ同じ方向を向いてケアできるよう努力している。また、新しく入職してくる職員にもきちんと理解できるよう指導している。	「人として、人らしく、人とともに」の理念は、出来るだけ家庭に近い雰囲気、入居者、家族、職員を含め、慣れ親しんだ人とともに、安心して生活が送れるように考えられており、新しいことに取り組む時にも、都度照らし合わせている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内行事にも参加している。施設に足を運んでもらえるよう、施設行事にも案内し参加して頂いている。地域の美容院や、買い物にも出かけている。今年度は、コロナウイルスの関係で中止している。	ホーム周辺には民家や集合住宅があり、外へ出かければ、挨拶を交わしたり、畑の作物やお花の差し入れなど、ふれ合う機会は多い。コロナ対応のため、少なくなった行事なども再開の計画を立てている。施設内での活動も工夫して行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を発行し、町内の皆さんに回覧し見てもらっている。年に一回は、勉強会を開きなるべくたくさんの人に足を運んで頂けるよう工夫している。今年度は、中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回、運営推進会議を実施。施設内の行事や、日常の様子などスライドにし見てもらっている。ご家族も4~5名の参加、入居者にも参加してもらい意見交換の場を設けている。	運営推進会議に、利用者さんや家族が常に参加されて、ホームは利用者さんや家族さんの意見を出来るだけ取り入れている。近隣住民からの意見やアイデアは、運営に反映される。ホーム側からの提案についても、地域住民や家族は積極的に受け入れてくれており、しめ縄作りや年末大掃除などが継続して実践されている。ケアの実践事例の発表や実地指導内容も報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に、運営推進会議での連絡や相談を行っている。また、必要な時には電話や窓口にて相談・報告をしている。	市の担当者とは、運営に関するだけでなく、個別のケースについても相談している。顔の見える関係を築いており、相談しやすい。	
6	(5)	令和3年3月23日 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一回、身体拘束適正化委員会を開き日々のケアの振り返りを行っている。また、年に2回勉強会を実施したり、研修会に参加し学びを深めている。	利用者さんは、ホーム内で、自由に過ごしているだけでなく、職員の見守りの下、外出も自由で周辺を散歩する。言葉掛けもやさしく、利用者さんの表情は穏やかである。丁寧に優しい声かけや態度は面会の家族などにもよいケアの証として受け取られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は、スピーチロックに焦点をあて日々のケアの振り返りや入居者様に対する言葉使い等の見直しをおこなった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修計画に盛り込み、勉強会をし理解を深める努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約の際は、契約書や料金の説明等ご家族に分かりやすく丁寧に説明し理解して頂いている。法改正等での料金改正時にも、同様の対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見や要望については、運営推進会議や面会の際に聞き取りをさせて頂いている。管理者だけでなく、職員も積極的に声をかけ入居者様やご家族に安心して生活して頂けるように努力している。	運営推進会議はコロナ禍にあつて文書でのやり取りとなっているが、参加者は、面会制限や行事予定の取りやめなど、やむを得ないことにも理解し協力もしてくれる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット会を実施。そこで出た意見や要望については、リーダー会で検討している。また、普段から職員が管理者へ話しやすい環境づくりを心掛けている。	ミーティングや、職員会議だけでなく、日常的に職員は、気づいたことや、アイデアを上司や仲間に表現できる。出された意見は、まず、実践してみて、結果を検討しながら職員全員で取り組んでいる。ホーム長は、職員一人一人と個別に面接する機会も設け、適切なスーパービジョンを行っており、定着率も良い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度人事考課を行い、その結果を踏まえ給与等の待遇面に反映している。また、面談も行い課題や目標について話す機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の人事考課制度を実施し、各職員の自己評価、各事業所責任者による評価を行っている。また、年間の研修計画を作成し職員が参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では、勉強会や忘年会職員旅行など、交流する機会がある。管理者や介護支援専門員は、外部との交流もあるが現場の職員は難しい現状もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の話を傾聴し、出来る限り相手の思いを理解できるよう努力している。 寄り添うケアを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に、管理者や介護支援専門員が家族への聞き取りを行うが、面会時には職員側から積極的に声をかけ信頼関係を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の生活歴を十分に把握し、なるべく自宅での生活に近づけるよう務めている。 何が一番必要なケアなのか、職員間で話しサービス内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を送る中で、良好な関係が築けるように、個々の生活等理解した上で対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	限られた面会時間で、有意義な時を過ごして頂けるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や、場所など出かけることができるよう支援している。今年度は、コロナウイルスの関係で出かける事が出来ないが、普段の会話の中で話題が上がるようにしている。	利用者さんの半数ぐらいは、地元大社町からの入居であり、コロナ禍にあっても、玄関内で仕切りを挟んでの面会など、制限があるが協力的である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士いい関係が保てるように、日々観察し対応している。利用者同志で難しい場合には、職員が間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所等へ移動される際には、情報提供し今までの生活が継続できるよう心掛けています。また、同じ法人内へ移動された時には様子を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望を聞き、出来るだけ実現できるようにしている。思いを伝えることが困難な方には、ご家族の方より聞き取り生活歴などを参考にして検討している。	利用者さんの意向や思いを常に聴いている。面会にこられた家族にもどんなことが好きかなど聴き、把握に努めている。美容院や日常的な外出、また、日々の家事などの取り組みにもその方の意向が反映されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り、本人やご家族へ聞き取りをし生活歴を踏まえその人らしく生活できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定し、日々の体調の変化の目安としてチェックしている。日常の会話や表情の中から、いつもと変わった事があれば詳しく記録し情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを大切にしながら、より良い生活を送って頂くためにはどうすべきか話し合いをし介護計画書を作成している。	介護計画は利用者毎のニーズに合わせた個別のものになっており、職員の観察や事例検討に合わせて、変化にも対応して変更されている。経過記録は、個別の介護目標と常に照らし合わせる手法をとっているため、利用者さん中心のケアが貫かれている。法人として組織的に書類を点検し、適正を維持している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録を通し、情報共有を行っている。また、連絡ノートも作成し気付いた事を記入することで実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望を聞き、できるだけ柔軟な支援が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所の中での生活だけにならないよう、行きつけの美容院や場所、買い物等地域資源の活用は心掛けていますが現在は外に出る事が難しい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入院時に、かかりつけ医をどこにするか相談し医院を決めている。利用者の体調の変化時には、かかりつけ医や訪問看護、ご家族と相談し適切な医療が提供出来るようにしている。	法人の理事長は、地元病院院長であることから、医療・看護のバックアップ体制は強力であり、複数の医師により、診療が細やかになされている。利用者さん、家族さん方は、健康管理に対して、安心してている。緊急時にも法人傘下の提携している訪問看護ステーションから駆けつけてくる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いなさ園の訪問看護ステーションと連携している。週一回の訪問に加え、24時間体制で相談にのってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供を行い安心して入院生活を送れるよう支援している。また、入院中も面会や病院側に情報収集しホームへ帰られてからの生活に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態の変化に応じて、本人や家族の要望を取り入れながらケアの方向性を決めるようにしている。また、主治医や訪問看護にも伝えアドバイスをもらっている。	看取りのマニュアルは詳細に渡って完備されている。法人に特別養護老人ホームや訪問看護、病院などがあり、質の高い認知症ケアと終末期におけるケア体制は整っている。開所9年が経ち、ホームでの看取りや職員の医療ケアはさらに向上している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に学ぶ機会を作り、いざと言う時に動けるよう努力している。また、事故発生時には振り返りをし次の対応に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回夜間を想定し、避難訓練を行い安全に避難出来るよう訓練している。また、地域の方にも参加して頂き協力が得られるようにしている。	防災マニュアルに基づき、職員、利用者、住民、消防などの合同の防災訓練が夜間想定を含めて年2回行われている。建物にも防火扉やスプリンクラーが設置されている。近くには、特別養護老人ホームがあり、食料などの備蓄も協力体制は整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を忘れず、相手を尊重した言葉かけに努めている。意志の疎通が難しい方であっても丁寧に対応している。	それぞれの個室は、プライベートな時間を楽しめるように、個性が表れている。トイレ誘導の声かけは、周りにそれと悟られることなくするなど、羞恥心やプライバシーに配慮されている。職員は、病気や障害があっても明るく笑顔で話しかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中で、本人が選択できる場面を設け対応している。また、思いを引き出せるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の生活ペースに合わせて支援出来るよう心がけてはいるが難しい場面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては気を付けている。髭剃りや化粧など1人では難しい方には、職員と一緒にいることでその人らしさを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、献立書きや盛り付けを一緒に行っている。また、季節を感じて頂けるよう行事食として提供しているが現在は、感染の点から出来ていない。	1週間に一回以上は、献立から調理まで、利用者さんが自分たちのこととして取り組める日を設けており、利用者さんは楽しみにしている。食事は職員も共に行い、お料理や食材にちなんだ会話をゆったりと楽しんでいる。季節の旬のものを使った食事は好ましい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量は、日々の記録に残している。一人一人に合った食事形態の見直し、トロミが必要な方は使用し、ムセなく摂取出来るよう提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。うがいが難しい方にはスポンジブラシを使用して口腔内に残差がないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間等を記録し、職員間で情報の共有をしている。なるべくトイレでの排泄を、心がけている。使っておられるパット等も、定期的に見直しをしている。	入居して2週間から1ヶ月程度で排泄パターンを把握して個別に排泄への援助を行っている。車椅子の方も含めてすべての利用者がトイレを使用できるように取り組んでいる。トイレは明るく清潔で、臭いも全くない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態をチェックし、必要に応じて水分量の工夫や下剤の調節を行っている。外出が出来ず、運動不足になりがちなので体操等を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく、1人1人の要望に答えられるよう努力しているがすべての希望に添えていない。	身体保清だけでなく、入浴がリラックスできる楽しい機会として援助をしている。介助も本人の出来る動作を尊重している。ひとりひとりの入浴のための浴室の空調や設備は家庭的でありながらも安全快適に仕上がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態に合わせて、柔軟に対応できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイルに閉じ、職員の目の届く所に置き確認チェックしている。また、薬の変更等ある時には連絡ノートにも記入し情報提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限り、一人一人が出来た事を役割として行ってもらっている。また、継続して支援ができるよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく、本人の希望に添えるよう支援してきたが現在コロナウイルスの関係で出来ない。	自然や賑やかさにも恵まれたホーム周辺の環境を活かして、コロナ禍にあっても出来る範囲で、利用者の希望や気候に応じて散歩やドライブなどにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は、自分でお金を持っておられる。その中から、好きな物を買ったり美容院代にあてておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	感染対策のため、面会制限あるため電話やライン電話を活用している。携帯電話を持っておられる方もおられお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、壁絵を月ごとに一緒に作成飾ることで季節感を味わってもらえるよう工夫している。	ホームの建築設計には、介護職のアイデアが十分に活かされており、アットホームで使い勝手の良さのみならず、木材や障子、床、梁、垂木の天井や畳など、暮らしの中に粋やしなやかさが感じられる空間になっている。段差のないウッドデッキは、舞台にもしつらえられ、園児や小学生との交流の場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のペースがあり、皆さん思い思いの場所で過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ、自宅で使っておられた家具や写真など持ち込んで頂きご本人が安心して生活できるよう工夫している。	居室は明るく清潔でしゃれており、障子や持ち込まれた家具が落ち着いた雰囲気を出している。それぞれの利用者さんの個性に合わせて自由に居室がしつらえられており、居心地の良さが感じられる。掃き出し窓から町並みや北山に至る風景も眺められ、開放感もあり、庭先に出たりもしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるよう努力している。手すり等がついていない場所もあるので、見守りを行い自立した生活ができるようにしている。		